



宮城学院広報
MIYAGI GAKUIN

vol.
174
2026.3

Glory to God

巻頭特集

「次世代」を担う女性を育む ～大学教育の最前線～

宮城学院女子大学 副学長・学芸学部日本文学科教授 深澤 昌夫

MG TOPICS

Close-up! 学びの世界

宮城学院女子大学 現代ビジネス学部現代ビジネス学科教授
石原 慎士

卒業生紹介

境 佑希子さん

タイトル「Glory to God」は宮城学院の校歌「天にみ栄え」の英訳であり、本学院のキリスト教精神を象徴する言葉。旧東三番丁キャンパスの講堂内にも、この言葉が掲げられていた。

「次世代」を担う女性を育む
大学教育の最前線



社会を取り巻く状況が大きく変動する現代、次世代を担う人材に求められる力も多様化しています。このような時代に、宮城学院女子大学の教育は何を重視し、どのような女性の育成を目指すのか。本学ならではの取り組みについて、教育の最前線に立つ副学長の深澤昌夫先生(学芸学部日本文学教授)にお聞きしました。

1963年生まれ。東北大学大学院博士課程後期中退。八戸高専を経て現職。専門は江戸時代の文学と芸能。1998年「近松の研究」で歌舞伎学会奨励賞受賞、日本文学部長・図書館長・大学院研究科長等を歴任。現在、宮城学院理事を務める。

宮城学院女子大学 副学長
学芸学部日本文学教授
深澤 昌夫

次世代を担う人材には、
どのような力が求められていると考えますか？

■ 自ら考え、発信する力

今の学生たちに最も身につけてほしいと考えているのは、「自分の意見を持ち、それを発信する力」です。

SNSやYouTubeなど発信ツールは身近なものになりましたが、その一方で動画など流れてくる情報を受け身で消費するだけになっていることも多いのではないかと思います。ただ見たり聞いたりするのではなく、自分で考えて言葉にし、相手とやり取りする、双方向のコミュニケーションが、これからの社会には欠かせません。

特に今は、アルゴリズムによって最適化された情報に囲まれています。検索す

れば必要な情報が届き、自分で気づかないうちに視野が狭くなってしまふ。だからこそ大学という学びの場を持つ意味は大きいといえます。単なる情報収集の場ではなく、異なる意見や価値観と出会う場所であり、この環境そのものに価値があると考えます。そして、自分の意見を持つために大切なのは、「聞く力」です。幅広く学び、他者の話に耳を傾ける。その積み重ねが、自分なりの考えを育てることにつながります。

■ 多様化の時代の
コミュニケーション

宮城学院女子大学では「共生のため

の多様性宣言」を掲げていますが、これは理念だけの話ではありません。日本の社会でも外国にルーツを持つ人が増え、異なる文化や価値観の人と暮らす場面が多くなっています。こうした環境では、どうしても摩擦や衝突が生じることもあるでしょう。しかし、その摩擦を恐れなくてほしいと思うのです。意見の違いは自然なことですし、大切なのは対立を避けることではなく、どう折り合いをつけていくか。その調整力が、これからの時代を生きる上では重要になります。

今の学生たちはすぐに「正解」を求めがちですが、現実の社会に明確な正解はほとんどありません。その時々で考え、行動し、試行錯誤しながら探していくのです。まずは間違えてもいいから、やってみること。そこから学びが始まります。

次世代を担う女性を育むために、
宮城学院女子大学では
どのような教育を行っていますか？

■ 「深める」ことと「広げる」こと

大学における教育は、大きく分けて専門教育と一般教育の2つに分かれます。各学科の独自領域を深く探究する専門教育は、大学教育における大切な柱であることは間違いありません。一方で、本学が専門教育と同じくらい大切にしているのが、いわゆる「リベラルアーツ」「教養教育」と呼ばれる一般教育科目です。

本学の一般教育科目で特徴的なのは、「MGUスタンダード」という理念に基づき開講されている基礎教育科目群です。MGUスタンダード科目は、「女性の視点を活かし、社会を多角的にとらえる力」「共生に必要なスキル」「自らの生き方を主体的にデザインする力」など、女性が現代社会を生き抜くために身に付けておきたい、また身に付けてほしい素養や能力を養うことを目的として設置された科目の総称です。このMGUスタンダード科目に加え、「リベラルアーツ基幹科目」「キャリア科目」「外国語科目」「体育科目」の4つの分野で編成する多数の科目を、全学共通に学ぶべき科目として配置しています。

専門領域の学びを深めることはもちろん大切です。しかし、「深める」ことと同じ

くらい「広げる」ことも重要です。専門性を追求することと幅広い視野を持つことは矛盾しないのです。そこで本学では、多種多様で学科横断的な科目をバランスよく配置することにより、異なる学科の仲間や教員たちと共に学び、様々な世界や価値観と出会える場を設けています。

専門教育による学びの「縦軸」と、学科横断的に広がる一般教育の「横軸」の組み合わせにより、幅広い学びが生まれます。こうした教育スタイルを、本学では昔から大切にしてきました。このような学びで得られた総合力と創造力は、将来学生の皆さんが社会に出たとき、必ずや新たな道を切り拓き、困難な課題を解決するのに役立つことでしょう。

また、女子大学という環境も学生たちの主体性を育てる大きな要素であると考えます。教職員以外に男性がいない環境では、当然すべて学生が自分たちで考え、自分たちで動かなければなりません。行事やイベントの企画運営も学生たちが担うわけですから、自然とリーダーシップが養われます。学校にとって学生



は大切ですが、大事にしすぎて「お客さん」にはいけません。主役は学生なのです。何事も「他人事にせず、自分たちでやる」「自分のこととして取り組む」。そういう経験の積み重ねが、本学が大切にしている「学生を主役とした学び」につながっています。

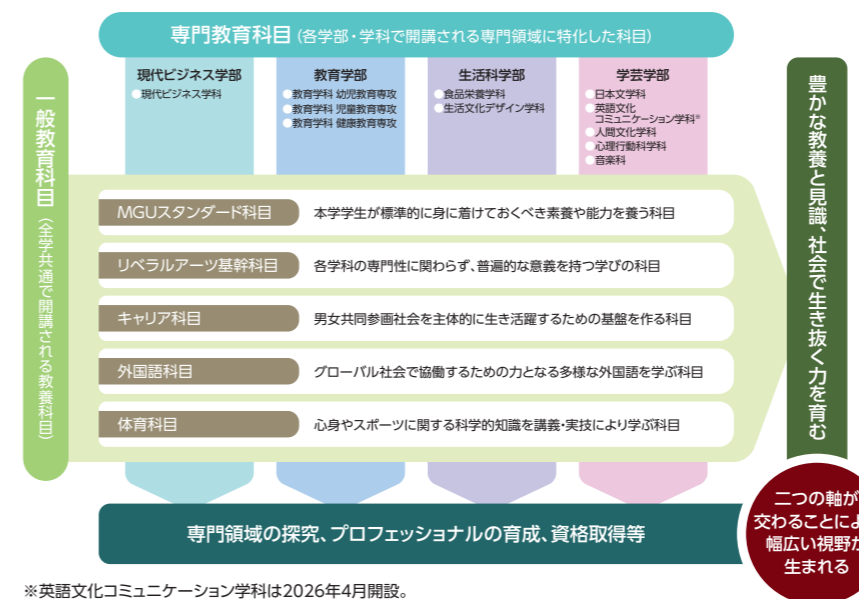
■ 地域社会連携と
ボランティア活動

授業以外にも地域連携や産学官連携によるプロジェクトを通して、大学での学びを生かした社会貢献の実践機会を提供しています。たとえば現代ビジネス学科では、地域の企業と協力して商品開発などのプロジェクトに取り組んでいます。また学生たちのボランティア活動も活発です。子どもたちの学習支援や被災地支援など、皆「誰かの役に立ちたい」という思いを行動に移しています。

その他、本学には学生たちが自ら立ち上げた自主活動団体がいくつもあり、さまざまな社会貢献活動を展開しています。近年では、地域の子どもたちを対象とした読み聞かせや読書の交流イベントを行う「小さな図書館プロジェクト」、子どもたちの体力向上を目指す「ちびっこかけっこコース」の運営などを行っています。子どもたちにとって教師や親と異なる立場の、年齢の近いお姉さんたちと接することは、とても有意義な体験となっているようです。

大学は学生の意志や意欲を汲み取り、思いを形にするための伴走役であり、主役はあくまで学生たち、というスタンスです。

■ 「幅広い学び」を創出する教育スタイルのイメージ図





落ち着きと温かさを感じさせるルーム「陽向(ひなた)」



さわやかさと軽快さを感じさせるルーム「粋(すい)」

主体的な学びを支えるために、 宮城学院女子大学が進めている取り組みとは？

■ラーニング commons の整備

現在、本学では「ラーニング commons」の整備を進めています。ラーニング commons とは、学生たちの主体的な学習スタイルを可能にする場であり、その学習を支援する空間です。

2019年のコロナ禍以降、対面授業が制限される中、しばらくの間、オンラインやオンデマンド授業を実施してきました。そのような経緯もあり、2023年度の入学生から個人のパソコンやタブレットを授業で使用するBYOD化を積極的に進めることとなりました。2024年にはキャンパス整備ワーキンググループを立ち上げ、ICT環境やラーニング commons など、情報基盤整備とアクティブラーニングを推進し、キャンパス環境の向上を目指して取り組んでいます。

ラーニング commons は学生の利便性を考慮し、講義館4階の中央部分と、従来休憩室として利用されていた大学図書館のブラウジングルームを改修してこれにあてます。さらに、情報教室として利用していた部屋からPCを撤去して普通教室に改修。家政館も多目的学修スペースに改修予定です。

計画を進めるにあたってアンケートを実施し、学生たちの声も取り入れました。学内教力所に改修デザイン案を掲示し、気に入った案には学生たちに

シールを貼ってもらい、デザインの方向性について意向調査を行いました。

ラーニング commons は従来の教室のように、教師が黒板やホワイトボードの前に立って教える場所ではなく、学生が自由に集い、グループワークやブレインストーミングなど共同で作業をしたり、あるいは一人でも集中できる多目的学修スペースです。デザインも型にはまらず自由な発想で設計されています。上の図はイメージですが、グループで議論しやすいアイランド型のテーブル、個別で学習できるボックス席、リラックスできるソファスペースなど、これまで机とイスが整然と並べられていた窮屈な空間に余白と遊びが生まれました。

内装や調度も、落ち着きと温かさを感じられる赤やベージュ、さわやかさと軽快さを感じさせるグリーンなど、部屋ごとに雰囲気が異なります。各部屋の愛称もアンケートを実施しました。赤系の部屋は「陽向(ひなた)」、グリーン系の部屋は「粋(すい)」、大学図書館のブラウジングルームは「こもれびテラス」に決定しました。

また、部屋の各席にはPCやタブレット用の電源コンセントが設置され、BYODに対応しています。「居心地の良いキャンパス」づくりの一環として、将来的にはラーニング commons のどこかに、情報関

係のサポート要員を配置し、学生たちが気軽に相談できるようにする予定です。

■自分が納得できる答えを見つけ、 未来を切り拓いていく女性

宮城学院女子大学が目指すのは、社会で活躍できる女性の育成であり、それぞれが一人の人間として納得のいく人生を歩んでいける基盤作りにあると考えます。

大学での4年間は、専門的な知識はもちろんですが、考え方や学び方、人とつながる力を身につける準備期間です。女性はその人生の中で、多くの選択を迫られることがあります。だからこそ、自分で考え、自分の言葉を持つことが重要です。

正解は一つではありません。多様な価値観と出会い、自分なりの答えを見つけしていく。そんな力を持った女性たちが次の時代を切り拓いていくと信じています。宮城学院女子大学は、その一歩を支える場所であり続けたいと思っています。



大学図書館「こもれびテラス」

～ミヤガクの「今」届けます～

MG TOPICS

宮城学院 (MG) の様々な行事や取組、
学生生徒の活動をご紹介します。



QRコードを読み取っていただくと
より詳細な情報をご覧いただけます。

大学 2026年4月、宮城学院女子大学に 「英語文化コミュニケーション学科」が誕生します！

宮城学院女子大学の英文学科は、1886年の宮城女学校創立以来、学びの中心にあった英語教育の伝統を1949年の大学設置時から引き継いできました。創立140周年を迎える2026年、この歴史と実績を活かし、新たな時代と共に歩む新しい学科へと生まれ変わります。

英語を基盤とした「創造的なコミュニケーション能力」の育成

新学科へ受け継がれる核心は、「ことば」への探求です。これまで培われてきた確かな英語教育力を基盤にしなが、コミュニケーションの理念をさらに広げ、世界とつながるための多様な手段を学べる環境を整えました。新たな学びの特徴として、音声言語だけでなく手話等も用いた表現技術を学べる「言語文化」、文学やアート、メディアといった創造的アプローチを探究する「メディア文化」の二つの領域をカリキュラムの柱に据えています。そして、英語にとどまらない多様な言語を学べる科目・プログラムも一層充実させました。

AI時代だからこそ育てたい「自分のことば」

さらに新学科では、授業にAIを積極的に取り入れます。近年AIの発展により、言葉を自ら紡がなくても容易に自己表現ができるようになりました。しかし、AIへ過度に依存すると、自ら考え言葉を選ぶ力が弱まり、人間同士のコミュニケーションが希薄化するおそれがあります。新学科では、AIを有効なツールとして活用しつつ、流暢さや円滑さだけにとらわれない自分自身の「ことば」を届けられる力を育てていきます。

多彩な留学・研修制度で実践的なコミュニケーション能力を育む

英文学科から引き継がれる研修プログラムも、新学科ではさらに選択肢が増えました。留学、国内外研修、地域取材、インターンシップ等の様々な場を置いて経験を積み重ねる機会を提供します。異なる文化に触れ、多様な価値観を理解することで、地域社会・国際社会の双方で活躍できる人材の育成を目指します。



私たちが描く「ツギの景色」

新学科の誕生を記念して、仙台在住のヒップホップユニットGAGLEとの特別コラボMV「ツギの景色」が誕生しました！

その他、4月の学科始動に向け、続々企画を実施しています。新学科がお届けする「ツギの景色」をこれからも楽しみに！

MV・学科の最新情報はこちらから▶



大学 海外提携校、続々拡大中！
宮城学院女子大学の留学プログラム

本学は、世界の平和に寄与する人材の育成を教育指針のひとつに掲げ、開学以来一貫してグローバル教育の充実に取り組んでまいりました。その柱となっているのが、全学共通で展開する留学プログラムです。本学では今年度、新たにニュージーランドのオークランド大学、韓国の梨花女子大学、カナダのビクトリア大学、フィリピンのセント・ラ・サール大学の4校と協定を締結し、海外提携校は10か国・地域15大学へと拡大しました。英語圏に加えてフランスやアジア各国とも連携しており、多様な言語と文化を学べる留学先を選択できます。また、学科による専門分野を海外で学習する独自の研修も行われており、より多くの学生が海外に挑戦しやすい環境が整いました。



今後も多彩な留学機会を創出し、国際社会で力を発揮できる人材の育成を一層推進してまいります。



海外協定校に関する情報はこちら！▶

大学 「学生食支援企画100円ランチ」を実施しました！

2025年10月27日(月)～31日(金)の1週間、学生限定でランチを100円で提供する学生食支援企画「100円ランチ」を実施しました。物価高騰の影響を受ける学生への支援を目的としたこの企画は、日替わりのメニュー各300食が用意されました。いずれのメニューも大変好評を博し、連日多くの学生が列をなす大盛況ぶりでした。特に最終日のマグロ丼は、新鮮なマグロ一匹をその場で捌いて提供する特別企画として大きな話題を呼びました。中には「5日間全てのメニューを食べた!」という学生もあり、この企画を楽しみにしていた様子がうかがえました。



この企画は、日本学生支援機構と宮城学院女子大学後援会からの寄附、および宮城学院生協の協力によって実施されました。学生の健康と生活を支えるとともに、大学内の温かいつながりを感じられる機会となりました。



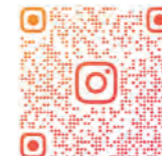
当日の様子はこちらにも掲載しています！▶

中学校 全国高等学校英語スピーチコンテストで
全国1位を受賞しました！

2026年2月8日(日)、国立オリンピック記念青少年総合センターにて全英連主催「第18回全国高等学校英語スピーチコンテスト」が開催されました。本校から高等学校2年生リーダー歩実さんが東北ブロック代表として出場し、第2部において全国第1位(外務大臣賞・外務大臣杯)という栄誉に輝きました。



全国9ブロックから選出された皆さんによるスピーチは、どれも力強く素晴らしいものでした。その中で、「The Power of a Box」というタイトルで身近な課題解決のために実践した経験を述べたリーダーさんのスピーチは第1位に選ばれたことは大変意義深いです。本当におめでとうございます！



当日の様子はInstagramにも掲載しています！▶

こども園 「クリスマスを祝う音楽会」に
初めて参加しました！

2014年12月、記念すべき第一回クリスマス・マーケットが開催されて以来、コロナ禍での中止期間を挟み、形を変えて開催されるようになった「クリスマスを祝う音楽会」。今年度は2025年12月5日(土)に開催されました。



昨年度、こども園の子どもたちが聖誕劇を披露するなどしてオール宮学での開催を熱望されましたが実現に至りませんでした。しかし、その願いを叶えるべく今年度初めて職員有志で参加させていただき、園のおやつで提供しているオートミールクッキーに手作りのろうそくやリースなどの販売、自然物を使用したツリーづくりのワークショップなどをさせていただきました。事前にお知らせいただいたこともあり、在園児はもとより修了児など大勢の方々が足を運んでくださり、クッキーは完売、ワークショップも大盛況のうちに終えることができました。この



ことを通し、この行事が子どもたち、保護者が同窓会のように集える時間・場になるよう、継続して参加することの重要性を感じました。



こども園の日常はこちらから▶

大学 本学に最高峰の
グランドピアノが寄贈されました！
ロームミュージックファンデーションピアノ寄贈事業

本学は、このたび公益財団法人ロームミュージックファンデーションが主催する「2025年度ピアノ寄贈事業」により、グランドピアノ7台の寄贈を受けることとなりました。



同事業は、演奏家育成に取り組む教育機関を対象に、老朽化したピアノを高品質な楽器へ更新し、学生の学習環境向上を支援するものです。

今回寄贈いただくピアノの中でも、カワイフルコンサートピアノ「SK-EX」は、世界的なピアノコンクールでも使用される最高峰のモデルであり、宮城県内では初めての導入となります。こうした貴重なピアノの寄贈は、学生が繊細で高度な音楽表現に触れ、創造性を深めていくための大きな支えとなるものです。この寄贈に感謝し、2026年3月12日(木)には贈呈式と本学音楽科・川浩治教授の演奏による披露記念コンサートが開催されます。

本学では、これらのピアノを活用し、学生の演奏技術の向上を目指すとともに、音楽文化の振興と地域貢献に繋げてまいります。



ピアノ納品の様子をご覧ください！▶

中学校 吹奏楽班マーチングステージ
全国大会出場！

吹奏楽班が2026年2月1日(日)、仙台サンプラザホールで開催された「第29回マーチング&パトオンステージ東北大会」に出場いたしました。審査の結果、魅力ある演奏を称える「アトラティブサウンド賞」を受賞し、2月21日(土)に大阪府堺市で行われる全国大会への推薦をいただきました。



班にとってマーチングへの挑戦は今回が初めての試みでした。座奏とは異なる身体表現に戸惑いながらも、果敢に練習を重ねてきました。専用の練習場がない中、週末には中高体育館や大学講堂と場所を移しながら、一步一步フォーメーションとサウンドを磨き上げてきた努力が、今回の快挙に繋がりました。

演目のテーマは「It's okay to be yourself. (ありのままがいいんだよ)」。多様性を尊重し合う現代において、自分らしく輝くことの尊さを、一糸乱れぬ動きと力強い音色に込めて表現することを目指しています。

全国大会という大舞台へ挑戦できる喜びと感謝を胸に、「自分たちらしいパフォーマンス」を披露してきます。



吹奏楽班Instagram▶

同窓会 同窓会の活動をお知らせいたします
行事・活動を通して受け継がれていく伝統

同窓会は2024年度よりホームカミングデーを春はSpring総会として、秋はAutumnとして礼拝と催事中心に開催しております。特に秋は寿喜の方をご招待して同窓生皆さんでお祝いしております。在校生が奏でる演奏に耳を傾け、懐かしい母校の香りを楽しみひと時となっております。



また、各地で支部会も開催されております。年1度の支部会にそれぞれの年代の同窓生が集まり交わりの時を過ごしております。学生時代にタイムスリップしてしまうことも、母校への愛の深さを感じさせられます。

在校生向けには、卒業を前にクラス幹事を決めていただき同窓生としての動きを担っていただいております。また、入会式を行い卒業生の皆様を同窓生としてお迎えしております。

このように様々な行事、活動の中で諸先輩方が作り上げてきたものを活かしつつ、新しい時代へ継承していきたいと考えております。同窓生のお一人お一人が豊かな時を過ごせますようにと祈りつつ。



同窓会ホームページ▶

法人 140年の歩みに感謝を込めて
—宮城学院アニバーサリーイヤー—

いよいよ2026年9月、宮城学院は創立140周年という節目を迎えます。東北地域における女子総合学園として歩んできた長い歴史をお支えくださったすべての皆様への感謝を込め、創立記念日である9月18日に記念礼拝および記念式典を執り行います。宮城学院の歩みと理念に思いを寄せてくださる皆様のご参加を、心よりお待ちしております。

◇創立記念礼拝・記念式典
日時：2026年9月18日(金)
場所：宮城学院礼拝堂
記念礼拝：日本基督教団総会議長 雲然 俊美 先生
記念講演：フェリス学院大学学長 小檜山 ルイ 先生

※式典の詳細、その他各種記念事業・行事につきましては、法人ホームページにて随時情報公開してまいります。



140周年記念行事等の最新情報はこちら！▶

宮城学院での思い出 旅立ちの時を迎えて

1日ごとに春の足音が増してくる3月。

今年もたくさんの園児、生徒、学生、院生たちが、宮城学院を巣立っていきます。

ここでは、この春卒業、修了し、新たなステージへと進む皆さんに、

宮城学院で過ごした日々の思い出をうかがいました。

雄大な森がつむぐ、子どもの主体性を育てる場所

2019年11月、建築系の大学の先生とのご縁で、初めて「森のこども園」を見学しました。伊東豊雄氏設計による建築と森が一体となった環境、そして森そのものを教育の場と捉える思想に魅了され、子どもの主体性を大切にする教育に強い印象を受けました。当時は、まさか自分の子どもが通うことになるとは思っていませんでしたが、その後生まれた次男の園選びの際、心の奥に残っていた記憶が自然とよみがえりました。



遊具に頼らず、森の恵みから遊びを生み出す日々の中で、先生方は一人ひとりの思いや挑戦に丁寧に寄り添い、子どもが「自分で考え、やってみる」経験を重ねられる環境を整えてくださいました。その積み重ねが、子どもの自己効力感を確かに育ててくれたと感じています。

また、子どもが毎日楽しみにしていた美味しい給食をはじめ、銀鮭を丸ごと捌く見学や味噌作り等の食育、大学の先生や学生との交流も、森のこども園ならではの貴重な学びでした。この心豊かな時間を支えてくださった先生方、そして園の皆様にご心より感謝申し上げます。



森のこども園
保護者代表
福井 大輔さん

挑戦を受け入れてくれた場所で見つけた、私らしい歩み

私はもともと、高校卒業後は就職するつもりでしたが、心の病を抱える友人の支えになりたいと思ったことがきっかけで心理学に興味を持つようになり、実践的に学べそうだと感じた宮城学院の心理行動科学科に思い切って進学を決めました。

実際に心理学を学んでみて、発達心理の視座から、「人の成長には周りの環境が重要」だと実感しました。この視点は、3年間続けた校友会執行委員会での活動にも深く影響しています。特に委員長に就任してからは、後輩が気軽に相談できるよう、コミュニケーションを大切にしてきました。その一方で、自分が周りから助けてもらい、仲間の支えに感謝する場面も多々ありました。環境に恵まれ、私自身も大きく成長できたと思います。



振り返ると、大学は私にとって「挑戦が許される場」でした。失敗を恐れず行動したことで、本当に充実した日々を過ごせたと思っています。4月から始まる新しい環境には不安もありますが、これまでの学びを糧に、前向きに進んでいきたいです。



宮城学院女子大学
学芸学部 心理行動科学科
山崎 華さん

支え合いながら歩んだ、かけがえのない3年間

宮城学院中学校での3年間は、挑戦と学びに満ちた、かけがえのない時間でした。私は生徒会執行部に2年間所属し、オープンキャンパスや文化祭などの運営を通して、学校をより良くするために仲間と協力して活動してきました。私はそれらの経験から周囲の状況をみて自分から積極的に行動する大切さを学びました。自分の役割を全うするだけでなく、忙しそうだったり困っている人がいたら声をかけて助けることで、仲間としての一体感や感謝の気持ちが生まれ、目標を成し遂げることに繋がると感じています。

生徒会長に立候補する際、不安で一步踏み出せずにいた私を、先生方や友達が励ましてくださいました。その支えのおかげで自信を持って選挙に臨み、生徒会長を務めることができました。この3年間で得た経験と学びは、これからの人生においても大きな支えになると感じています。支えてくださったすべての方々に、心から感謝しています。本当にありがとうございました。



宮城学院中学校
木村 理麻さん

二人の恩師とともに歩み、成長できた6年間

学部時代、当初は厳先生のゼミに所属し、さまざまな施設・空間の設計やインテリアが人の心理に与える影響について学んできました。3年次の12月に厳先生が急逝され、一時は今後の研究活動について途方に暮れていたものの、長谷川先生のご専門分野である建築環境学に興味を惹かれ、師事することを決め今に至ります。「空調を利用して快適な空間を作る」という研究は、コロナ禍を過ごしてきた私にとって身近なテーマであり、厳先生からの学びを活かせる分野であるとも感じました。

大学院では日本建築学会の東北支部大会での論文発表を目標とし、昨年6月にそれを実現することができました。院1年次に大会発表を聴講した際は内容をほとんど理解できず、「本当に自分にもできるのか」と不安ばかりでしたが、一步一步研究を重ね、大きな目標を成し遂げた達成感がかげがえのないものでした。同期の院生がおらず心細い気持ちもありましたが、その分長谷川先生には手厚いご指導をいただき、たくさんの貴重な経験をさせていただけたことを心より感謝しています。春からは建築とは別の分野に進みますが、6年間で培った課題発見力やものづくりの視点を今後の歩みにも活かしていきたいです。



宮城学院女子大学大学院
人文科学研究科
生活文化デザイン学専攻
多勢 早智さん

Close up!

学びの世界

宮城学院の教育や研究資源について、
多彩なキーパーソンに
焦点を充てて紹介します。

これからも地域とともに歩み続ける 宮城学院女子大学の挑戦

宮城学院女子大学 現代ビジネス学部 現代ビジネス学科
石原 慎士 教授

1970年生まれ。
2018年より宮城学院女子大学現代ビジネス学部現代ビジネス学科教授として教壇に立つ。
2023年度より社会連携部長も務める。

地域の人々と本音で語り合うことが 「地域マーケティング」を行う上での第一歩

「地域マーケティング」とは、地域が抱える課題と真剣に向き合い、その解決策を考える学問です。単に商品を開発したり、販売方法を工夫したりすることだけが目的ではありません。地域資源や産業、文化など、多様な要素に目を向け、それらをどう生かし、どのような未来を描いていくのかを考える。そのプロセスそのものに、地域マーケティングの面白さがあります。

私はこれまで東北各地をフィールドに、農産物や水産物のマーケティングやブランディングなど、さまざまな産学連携プロジェクトに携わってきました。プロジェクトを進める上で何よりも大切にしているのが、地域の人々と本音で語り合える「信頼関係の構築」です。丁寧に対話を重ねることで、数字やデータだけでは見えてこない、地域の本質的な課題が浮かび上がってきます。

そのため、私のゼミでは学生に、まず現場へ足を運ぶことを勧めています。マーケティングの理論を学ぶことはもちろん重要ですが、フィールドワークを通して現地の空気や人の想いを肌で感じなければ、物事の本質は掴めません。企業や地域の方々や連携し、商品開発や試験販売に挑戦する中で、学生たちはマーケティングを学ぶ上で欠かせない「消費者の視点で客観的に物事を捉える力」や「主体的に学ぶ姿勢」を身につけていきます。社会人基礎力である、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力。学生の皆さんがこうした力を育めるよう、私たち教員もサポートしていきたいと考えています。

地域の大学として地域の方々と ともに成長し合える絆を育てていく

私は現在、本学の社会連携部長として、地域協働事業にも

力を注いでいます。2025年には本学のサテライトスポットをランチ仙台に開設し、地域の人々の声に耳を傾けながら、学生が主体となって活動できる体制の構築を目指しています。またこの他にも、地域の高齢化に伴う防災対策への取り組みや、企業と連携した地場産品の商品開発など、協働プロジェクトを進めています。

大学は「教育」・「研究」・「地域貢献」を担う「地域の知の拠点」です。特に地方大学には、地域課題の解決や産業振興、生涯学習の場の提供など、持続可能な地域づくりへの貢献が強く求められています。こうした活動に学生が主体的に関わり、誰かのために考え、行動することで得た学びこそが、学生自身の大きな成長につながるのではないのでしょうか。本学はこれからも地域と信頼関係を築きながら、社会連携活動を通して、地域と学生、そして大学がともに成長し合える関係を構築していきたいと考えています。

地域の可能性を見出し 持続可能な未来を描く力を身につける

本学は建学の精神を踏まえながら、地域の人々とともに考え、ともに未来を創っていく大学でありたいと考えています。これまでの産学連携を通して私が感じてきたことは、東北各地域には自然や食、文化など、他の地域にはない多くの強みがあるということです。

学生の皆さんには、ぜひ地域の課題や可能性に目を向け、自分が取るべきアクションとは何か、考えて欲しいと思います。その積み重ねが、素晴らしい地域ブランドづくりや、ひいては持続可能な地域の未来を築くことにつながると、私は信じています。

卒業生紹介

MG talk Relation vol.20

様々な分野で活躍する
宮城学院の卒業生を紹介します。

“ワクワクする気持ち”を大切に 一歩踏み出す勇気を

私 は現在、世界中に支社を有するチーズメーカーLeprino Foodsの日本支部責任者として、アジア太平洋地域のマネジメントを行っています。今でこそ世界各国を舞台に仕事していますが、宮城学院高等学校に通っていた頃は、テストで赤点を取っても気にしないような学生でした。



そんな私ですが、学び舎での日々はとても充実しており、忘れ難い多くの経験を積むことができました。その一つが、陸上部で長距離走に打ち込んだ日々です。練習を積み重ね、最後まで走り切る。その経験を通して、「目標に向かってやり抜く力」が身についたように思います。

また、宮城学院高等学校はグローバル教育にも力を入れており、交換留学生と触れ合う機会が多くありました。英語が少しでも話せれば、多様な国の人たちと笑顔でコミュニケーションが取れる。その体験は、私にとって大きな刺激となりました。

こうした経験を重ねる内に、次第に「卒業後は海外の大学で学びたい」と思いが強くなっていきました。留学を相談した際には、両親や先生、先輩方から心配や反対の声もあがりました。また、勉強から離れていた自分にとって、決して簡単な道ではないだろうということも自覚していました。それでも、「海外で生活する」という未知の環境に飛び込む自分を想像した時に感じた“ワクワクする気持ち”が、私を前へと突き動かしていたのです。

入学時に専攻を決める必要がないこと、外国人向けの奨学金制度が整っていることに魅力を感じ、留学先はアメリカのワシントン州立大学を選びました。教育学や栄養学など、複数の分野に興味がありましたが、将

来、日本で働く可能性も視野に入れ、最終的には食品科学を専攻。食品の品質管理からマーケティング手法まで、実際の食品会社の動きを想定して商品開発を行う大会に参加するなど、充実した学生生活を送りました。

現在は東京を拠点に、世界各地を飛び回る日々を送っており、体力と健康の大切さを痛感しています(笑)。また、留学生活を通して多様な文化や価値観に触れる中で、「周囲の評価に流されず、自分の軸を持つこと」の重要性にも気づくことができました。アメリカでは日焼けした肌が好まれ、日本では白い肌が美しいとされるように、評価基準は環境によって大きく変わります。だからこそ、「自分はどう思うのか」を問い続け、自ら選ぶ姿勢が大切だと感じています。

学生の皆さんも、“ワクワクする気持ち”を大切にしてください。自分の目の前にある道は、決して一つではないということ。自分にプレッシャーをかけすぎず、「楽しい」と感じる心を大切にしてください。その先に、きっと自分だけの道が見えてくるはずですよ。

境 佑希子さん

2003年度 宮城学院高等学校 卒業
Leprino Foods 日本支部責任者

宮城県仙台市出身。高等学校卒業後、自身の中にある“ワクワクする気持ち”を大切に、単身アメリカへ渡り、ワシントン州立大学に留学。大学卒業後は世界最大のチーズメーカーLeprino Foodsに入社し、異国での挑戦を経て、2019年に日本支部責任者として帰国。東京を拠点に、韓国やタイ、シンガポールなど、世界各地で活躍している。



募金者芳名

【2025年10月1日～2026年1月31日受付分】
 ◎募金総額4,344,000円(2026年1月31日現在)

- 一般・法人**
- 金70,000円
匿名1名様
 - 金50,000円
匿名1名様
 - 金30,000円
宮城学院同窓会
仙南支部様
 - 金10,000円
宮城学院女子短期大学
家政科食物専攻
Bクラス有志様
みんなの集い様
仙台五橋教会様
風間 義信様
山下 佳代子様
工藤 恒夫様
- 大学・大学院**
- 金100,000円
千葉 公哉様
 - 金10,000円
鈴木 広之様

- 千葉 孝様
藤木 公二様
中山 雄揮様
匿名1名様
- 高等学校**
- 金100,000円
匿名1名様
 - 金10,000円
泉田 征慶様
- 中学校**
- 金200,000円
丹羽 貴道様
 - 金10,000円
匿名1名様
- 同窓会**
- 金1,000,000円
菅原 雪絵様
 - 金200,000円
南小栢 祐子様

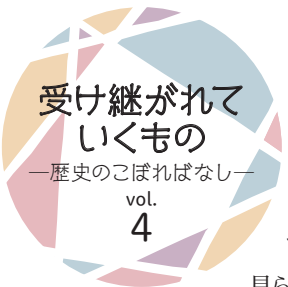
- 金100,000円
匿名2名様
- 金50,000円
匿名1名様
- 金30,000円
浅野 敬子様
大島 直子様
安藤 智子様
鎌谷 光子様
匿名1名様
- 金20,000円
佐久間 恵美子様
村上 栄美子様
加藤 啓子様
匿名3名様
- 金10,000円
川上 裕子様
コサキ 共子様
由佐 泰子様
黒澤 久美様
会田 幸子様
後藤 久美子様
川嶋 洋子様
倉金 和子様
熊谷 直子様

- 昆野 絵美子様
菊地 菜月様
小笠原 昭子様
黒澤 美知子様
長井 富美子様
遠藤 明澄様
齋藤 由布子様
菅原 房子様
佐々木 ケイ様
木村 典子様
片山 知絵様
栗田 花楓様
齋藤 洋子様
我妻 喜美子様
匿名13名様
- 金5,000円
星 八重子様
匿名1名様
- 金2,000円
福地 純子様
児玉 宏子様

- 役員・教職員・旧教職員**
- 金500,000円
長谷部 弘様

- 金200,000円
佐久間 敬子様
天童 睦子様
- 金100,000円
鈴木 和彦様
色川 幸子様
匿名1名様
- 金80,000円
藤田 嘉代子様
- 金50,000円
渡部 美紀子様
匿名2名様
- 金30,000円
瀬谷 寛様
加藤 嘉子様
- 金20,000円
高橋 陽一様
匿名2名様
- 金10,000円
三友 安紀子様
匿名1名様

皆様のご理解とご協力に深く感謝し、厚く御礼申し上げます。



桜ヶ丘キャンパスのシンボル

正門を通り過ぎると、緑の中庭とレンガ色の校舎を背景に、帽子をかぶった女性の立像「帽子の像」が宮城学院に集う人々を迎えてくれます。卒業式や入学式では、「帽子の像」の前で写真を撮る人々の長い列が見られます。今回は、桜ヶ丘キャンパスのシンボルともいえる「帽子の像」についてご紹介します。

宮城学院は、桜ヶ丘キャンパスへの移転から6年後の1986(昭和61)年に創立100周年を迎えました。その記念事業の一つとして建てられたのが「帽子の像」です。制作者は宮城県出身で、日本を代表する彫刻家・佐藤忠良氏。台原森林公園の「緑の風」の彫刻や、絵本『おおきなかぶ』(福音館書店版)の挿絵でも広く知られています。



「帽子の像」除幕式(1986年10月9日)

当時、配布されたしおりには、制作途上の「第一のデッサン(1985年作)」が描かれており、佐藤氏のイメージの起点を知ることができる貴重な資料です。「帽子の像」の女性は現在レオタード姿ですが、創作当初は「短いスカート」姿の構想もあったと、佐藤氏は早坂禮吾元学院長に語っています。

制作者の佐藤氏、そしてモデルをつとめた愛弟子で彫刻家の笹戸千津子氏を迎え、除幕式は同年10月、「帽子の像」の前で行われました。

早坂禮吾先生は、宮城学院第5代学院長(1979～1987年)。キャンパス移転や100周年事業を担われた。父の哲郎氏は、学院草創期に宣教師の先生方を支え、本学の基礎を築いた人物。佐藤氏訪問のエピソードは、『我苦因鳥の歌』(宮城学院同窓会、1988年、253～254頁)に掲載。